

令和5年度 「青少年の家」不登校対策事業

第1回ふれあいキャンプ 事業報告

1 趣 旨

不登校傾向にある児童生徒の活動意欲、コミュニケーション力、自己肯定感の向上と社会的自立を図るため、自然体験や宿泊体験等不登校の状態に応じた多様な体験活動の機会の提供と相談対応を行うとともに年間を通じた居場所を構築する。

(SDGs との関連)



4 質の高い教育をみんなに



10 人や国の不平等をなくそ



14 海の豊かさを守ろう



15 陸の豊かさを守ろう



17 パートナリシップで目標を達成しよう

2 主 催 大分県教育委員会

3 実施期日 令和5年6月17日(土)～18日(日)

4 実施場所 大分県立香々地の青少年の家

5 参加者数 32名(児童生徒 10名、保護者6名、メンタルフレンド等16名)

6 支援者 大分大学福祉健康科学部学生(メンタルフレンド)

7 日程・プログラム

6月17日(土)		6月18日(日)	
時刻	活 動 内 容	時刻	活 動 内 容
12:30	受 付	6:30	起床、洗面
13:00	出会いのつどい(アイスブレイキング)	7:30	朝 食
14:00	活動1「磯の生き物観察」	8:40	部屋点検
16:00	のんびりタイム(選択活動)	9:00	のんびりタイム(選択活動)
17:30	夕 食	10:00	活動3「大分の郷土料理づくり」 団子汁、やせうまづくり
19:00	活動2「プラネタリウム・星空観察」 【保護者懇談会 ～20:30】		※昼食は作った団子汁とやせうまを いただきます。
20:30	入浴	12:30	
21:30	就寝準備	13:00	別れのつどい
22:00	就 寝		解散

① 出会いのつどい(視聴覚室)

- ・参加者や大学生ボランティア(以下、メンタルフレンドという)、職員等が最初に出会うの場として設定した。
- ・参加者の緊張を和らげるためにアイスブレイクとしてキャンプネームや好きなアニメキャラクターを紹介する自己紹介を行った。参加者から笑顔も見られるようになり、緊張も少し和らいだ。



② 活動1「磯の生き物観察」(尾崎海岸磯)

- ・開始直後は、タイドプールでカニや貝等を観察し、捕獲するなどやや控えめに活動する参加者が多く見られたが、職員がウニやヒトデなどを捕えて見せると、積極的な姿勢が見られるようになり、メンタルフレンドと一緒に生きて探す姿が見られた。
- ・捕えた生き物をお互いに見せ合い、自信満々に紹介する姿が多く見られた。
- ・メンタルフレンドと参加者の距離が自然と縮まる様子が見られた。



③ 「のんびりタイム」(レクリエーション室・創作室・談話室・部屋)

- ・自己選択・自己決定をねらいとした自由選択活動として「のんびりタイム」を設定した。
- ・メンタルフレンドが参加者に意思を確認、または選択肢を提示し、一緒にバトミントンや卓球、オセロ、カードゲームなどの遊びを行った。
- ・メンタルフレンドとのつながりが強まるとともに、他の参加者がしている遊びに合流したり、自分の遊びに誘ったりと、参加者相互の交流の場面も見られるようになっていた。



④ 「保護者懇談会」(談話室)

- ・保護者7名、施設職員2名、アドバイザー1名の計10名の参加で実施。
- ・子どもの家庭での様子や悩んでいることなどが語られ、思いを共有する場となった。



⑤ 活動2「プラネタリウム・星空観察」

- ・保護者懇談会と同じ時間帯で実施。
- ・プラネタリウムで星空の話を学習した後、実際の夜空を観察した。

⑥ 「メンタルフレンド会議」(談話室)

- ・1日の子どもたちの様子や、メンタルフレンドの振り返り、情報交換の場として設定した。
- ・課題や困っていること、子供の成長が見られた点など、様々な視点で子どもの様子を出し合い共有することができた。
- ・一番近くで子供を見守っているメンタルフレンドの奮闘の様子がうかがえる場であった。
- ・熱心にメモをとりながら、翌日の活動につなげるための意見や指導を受けていた。

⑦ 活動3「大分の郷土料理をつくって食べよう」

- ・だんご汁とやせうま作りを行った。料理の経験がない参加者もいため、スクリーンに動画を映して説明し、レシピも写した。
- ・全員小麦粉をこねてだんごをつくる活動を行った。メンタルフレンドは見守りやアドバイス中心にし、なるべく子供に活動させるようにした。
- ・だんご汁係とやせうま係に役割を分担し活動した。すべての子供が自分の役割に取り組む姿が見られた。



⑧ 別れのつどい(まとめ・振り返り)

- ・アンケート用紙を使いまとめ・振り返りを行った。感想にはメンタルフレンドへの感謝の思いが言葉や絵画で表現されていた。
- ・メンタルフレンドの感想発表では2日間の振り返りと参加者への思いが発表された。
- ・参加者から次も参加したいと言う声も聞かれた。
- ・次回(九重青少年の実施)のPRを行った。



8 事業評価

○参加者アンケート集計(対象:参加者8名)

・プログラムについて

	内 容	楽しかった	少し楽しかった	あまり楽しなかった	楽しなかった
①	磯観察	8	2	0	0
②	のんびりタイム	9	1	0	0
③	プラネタリウム・星空観察	7	3	0	0
④	だんご汁とやせうま作り	8	2	0	0

・自分の事について

	内 容	できた	少しできた	あまりできなかった	できなかった
①	積極的に取り組む事ができた	7	3	0	0
②	MF や友達と話ができた	8	2	0	0
③	キャンプを楽しむことができた	10	0	0	0
④	まわりの力をかりずに活動できた	0	7	2	1

○メンタルフレンドアンケート集計(対象:メンタルフレンド15名)

・参加前と後での変化について

	内 容	4(変化大)	3	2	1(変化小)
意欲	活動に最後まで意欲的に取り組んでいた。	6	6	2	1
コミュニケーション	MF や仲間に積極的に取り組んでいた。	6	4	4	1
自己肯定感	活動に主体的に取り組んでいた。	9	5	1	0
自立	MF や大人の力を借りずに活動できた。	7	7	1	0

○IKR アンケート調査集計(対象:参加者10名)

(教育効果の検証) 分析方法:対応のあるt検定(分析結果の詳細は詳細出力を参照)

【生きる力】の変容(得点範囲:28~168点)

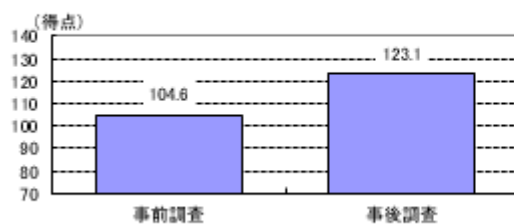


図1. 「生きる力」の平均値の推移

(事前-事後) 18.5
 ・事前から事後にかけて 18.5ポイント向上
 ・その向上に有意差が見られた

【心理的社会的能力】の変容(得点範囲:14~84点)

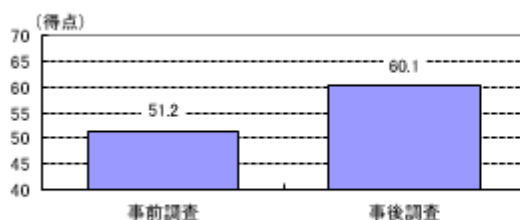


図2. 「心理的社会的能力」の平均値の推移

(事前-事後)
 ・事前から事後にかけて 8.9ポイント向上
 ・その向上に有意差が見られた

「徳育的能力」の変容（得点範囲：8～48点）

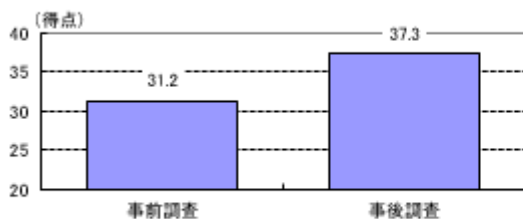


図3. 「徳育的能力」の平均値の推移

（事前－事後）

- ・事前から事後にかけて 6.1ポイント向上
- ・その向上に有意差が見られた

「身体的能力」の変容（得点範囲：6～36点）

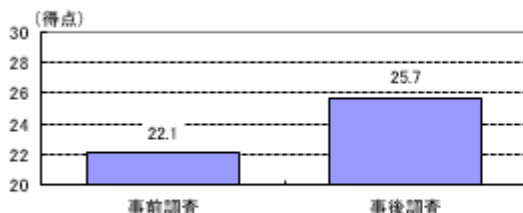


図4. 「身体的能力」の平均値の推移

（事前－事後）

- ・事前から事後にかけて 3.6ポイント向上
- ・その向上に有意差が見られた

2 成果と課題

(1) 成果

- ・全プログラムで、全参加者が楽しかったと回答しており、参加者にとって満足度の高いキャンプとなった。特に「のんびりタイム(自由選択活動)」での満足度が高い。不登校または不登校傾向にある子どもにとってメンタルフレンドとのつながりを深める時間であるとともに、自己選択・自己決定を促す機会となり、重要度の高い活動であった。
- ・メンタルフレンドによる参加前後の変容についてのアンケートによると、特に自己肯定感に関する変容が大きかったことが分かる。初めて体験するだんご作り等がうまくできたという成功体験が自己肯定感の向上につながったと考える。
- ・メンタルフレンドの子どもの様子や特性をふまえたきめ細やかな言動は、子供に安心感を与え、子供の活動意欲の向上にもつながっている。

＜IKR アンケートの分析＞

- ・生きる力の変容は18.5の向上であった。その中でも特に心理的社会的能力の変容が大きく向上(事前51.2⇒60.1)している。これは、成功体験を積み重ねることができる活動(だんご汁作り等)に主体的に取り組むことができたためと考えられる。メンタルフレンドが常に子供の主体性を尊重し、自己決定を促すかかわり方が大きく影響している。

(2) 課題

- ・参加者同士のつながりを深め、コミュニケーション力を育てる手立てが必要である。きっかけをメンタルフレンドがつくることで参加者の横のつながりをつくるなど工夫が必要である。
- ・新規参加者を増進するために、こまめにメーリングリストを活用した周知や募集を行う必要がある。複数回参加してもらうことと、新たな参加を促進することを並行して増進することで、それぞれ相互の出会いや新たな人間関係を生み出すことに期待がもてる。